

3月・4月 開館カレンダー

北千里児童センター

3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

休館日

北千里地区公民館

3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

北千里図書館

3月							4月						
日	月	火	水	木	金	土	日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7				1	2	3	4
8	9	10	11	12	13	14	5	6	7	8	9	10	11
15	16	17	18	19	20	21	12	13	14	15	16	17	18
22	23	24	25	26	27	28	19	20	21	22	23	24	25
29	30	31					26	27	28	29	30		

北千里児童センター 午前10時～午後6時
休館日 年末年始・施設点検などによる臨時休館あり

北千里地区公民館 午前10時～午後10時
休館日 毎週火曜日 祝日の翌日 年末年始

北千里図書館 午前10時～午後8時
休館日 毎月最終火曜日 年末年始 特別整理休館日

最寄駅 阪急電鉄千里線「北千里駅」徒歩3分 阪急バス「阪急北千里駅」徒歩3分

Event Information

◆ しゃぼん玉

日時：3/20(金祝) 10:00-11:50
15:00-16:50
場所：児童センターわんぱく広場
対象：乳幼児（保護者同伴）
小学生・中学生

申込：不要
いろいろな種類のしゃぼん玉を楽しもう♪
※雨天中止

◆ 弁護士に聞く終活 遺言書講座

日時：4/12(日) 10:30-12:00
場所：会議室1-3
対象：18歳以上
定員：30名（先着）
参加費：無料
申込：3/12(木)10:00～電話・FAX
FAXの場合は(1)講座名(2)氏名(3)電話番号をご記入ください。 FAX(06-6155-8278)
講師：いろいろ法律事務所
松島 達弥 さん

◆ はじめてのパンづくり

日時：4/26(日)
①11:00～12:00
(ちょうちよのハムマヨパン2個)
②12:30～13:30
(お花のあんぱん2個)

場所：調理実習室
対象：2歳～小学生と保護者
定員：各回親子12組（抽選）
材料費：1口1500円・2口3000円
申込：4/1(水)～14(火)
講師：簡単時短パン教室rikka
親子で簡単パン作り体験しませんか。

申込はこちらから↓



①11:00～12:00



②12:30～13:30

＼まちなかりビング北千里ニュースレター／

MACHIKITA DAYS

3月号

北千里の「時」と「人」をむすぶ 開かれた暮らしの中の交流拠点

2026/3/1発行



あそびも まなびも
まちきたで

今月の表紙「あっ、見つけた！」

まちきたスタッフ イチオシ文具はこれだ！

まちきたの「学び人」の哲学に迫る わたしの学び哲学／

World Kitchen ゆい 主催 津田 篤子さん

まちきた図書館員の偏愛本棚／大阪が生んだストーリーテラー



まちなかりビング北千里

〒565-0874 大阪府吹田市古江台3丁目8番1号

代表電話・北千里地区公民館 電話 06-6834-2921 FAX 06-6155-8278
北千里児童センター 電話 06-6833-6211 FAX 06-6155-8122
北千里図書館 電話 06-6834-2922 FAX 06-6834-2944
指定管理者 TRC北千里共同事業体 電話 06-6155-8277

URL:<https://machikita.jp> Instagram:@machikita.jp

MACHIKITA DAYS 3月号 (2026年3月1日発行) 編集発行：指定管理者 TRC北千里共同事業体

この冊子は400部作成し、1部当たりの単価は20.4円です。



WEB SITE



Instagram

ちまたにあふれるオシャレな文房具たち。持っているのに…
 ついつい買ってしまいますね。
 まちきたの文房具ラバーズに
イチオシ文房具を教えてくださいました。



Kinoさんのイチオシ



カラーボールペン

びっくりするほどたくさんカラーがあるボールペン。これを使って手帳を書くとき気が明るくなります。

文房具の魅力とは？

魅力的なものが無数にあって気軽に楽しめる。ボールペン1つとっても書き味が好き・色がきれい・デザインが素敵・手帳にさしやすい…などお気に入りのものがどんどん増えていきます。



カッターつきのり

のりのふた部分がカッターになっていて、溝に紙を差し込むだけでスパッと切れます。仕事でもプライベートでも大活躍！



ノート

かわいい色や絵柄のノートを見ると使い道も考えずに買ってしまいます。日記を書くかスクラップブックにするか…悩み中。

ゆずさんのイチオシ



ロールふせん

弱粘着の全面のりでふせんとしても、貼ってはがせるシールとしても使えます。手帳やメモで使うとかわいいです。

文房具の魅力とは？

数えきれないほどたくさんの種類があり、探せば誰でもお気に入りのものが見つけれるところ。仕事で使うペンやノートも愛着のあるものにする事で、前向きな気持ちになれます。



万年筆 インク

自分へのご褒美に購入。ペン先やパーツの色を自分で選んだお気に入りの1本です。インクはインクだまりの色の揺らめきときめいてコレクションしています。

はしびろこうらばあさんのイチオシ



型抜きパンチ

右:スクエア
左:切手型エンボス

気になるshopのマークなどを型抜きにして、手帳に貼って保存しています。

文房具の魅力とは？



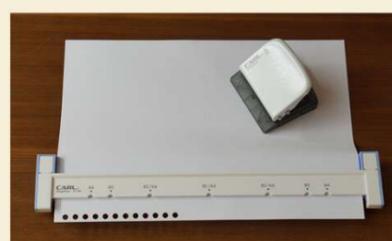
マークのポストイット

テーマ別に仕分けでき、手帳が見やすくなります。

ポケットシール

手帳の裏表紙に貼って、はさんでおきたいものを入れます。4~5枚入れられます。

自身のモチベーションUPと情報の整理に便利。



ルーズリーフ用パンチ

講習時などたくさん配布される資料をパンチして、ルーズリーフと一緒にファイルできます。資料を切り取ってのりづけする手間がはぶけて便利。

まちきたの「学び人」の哲学に迫る **「わたしの学び哲学」**

【File31】「World Kitchen ゆい」主催

津田 篤子 さん



■ 「World Kitchen ゆい」を始めたきっかけを教えてください

料理を通して、言葉や文化の違いを越え、人が自然につながれる場をつくりたいと思ったことがきっかけです。同じ食卓を囲むことで、互いを知り、認め合える関係が生まれると感じ、「ゆい（結び）」の場を目指して始めました。

■ 在留外国人の方々と関わる中で、大切にしていることや心掛けていることはありますか

お互いの文化や考え方を尊重し合い、違いを否定せず認め合うことを大切にしています。さらに、その違いを楽しみ、学び合える関係性を築けるよう心掛けています。

まちきた開催のクッキング系イベントにいつもご協力いただいている津田 篤子 さんの「学び哲学」に迫ります！

■ これまでに会った料理の中で、特に印象に残っている国の料理はありますか

ウズベキスタンのナンを作った体験が心に残っています。講師の方が、おじい様から受け継いだ美しい短剣を使って料理をしてくださり、道具に込められた歴史や思いから、その国の文化の深さを感じました。

■ 今後の目標や挑戦してみたいことは何ですか

料理をきっかけに、地域の中で、世代や国籍を越えた交流を広げていきたいと考えています。誰もが安心して集い、自然につながれる場をこれからも育てていきたいです。

■ おすすめの本を教えてください

わたしのおすすめの本は「旅行者の朝食」です。ロシア語通訳者である著者の食に対する深い愛とうちくが楽しいエッセイ。大笑いしつつ、食と文化について考えさせられる一冊で、読み終わるとハルヴァ（※）を探す旅に出たくなります。

（※）中東などで食べられている甘い練り菓子



旅行者の朝食
米原万里/著 文芸春秋

まちきた図書館員の偏愛本棚

北千里図書館の図書館員たちが「本当に好きな本」「読んで欲しい本」を毎月紹介し、読者のみなさまをまだ見ぬ読書の世界へと誘うコーナーです。大阪府出身の作家の作品を紹介します。すべての本は吹田市内の図書館に所蔵しています。

今月のテーマ：**大阪が生んだストーリーテラー**

01 地の底の記憶
島山丑雄 / 著 河出書房新社

吹田市出身・芥川賞作家のデビュー作！
 人さらいの危険が噂される河川敷で、青く輝くラピス・ラズリの鉱石を見つけた小学生カップル井内と晴男。上流の水車小屋に住む不審な男・青田が「妻」と呼ぶ人形の秘密を知った二人は…。土地にまつわる怪しい物語に好奇心と不安が煽られる。デビュー当時大学生だった著者の才気あふれる作品。



02 残花亭日曆
田辺聖子 / 著 角川文庫

笑いと涙で綴る夫婦のフィナーレ

大阪市出身の作家。最愛の夫「カモカのおっちゃん」が病に倒れ、逝くまでの日々を綴った日記。衰えていく夫との日々は残酷なはずなのに、交わされる大阪弁の掛け合いはまるで漫才のよう。大切な人を失っても「きっとあの世でまた、おもしろい話ができる」と信じさせてくれる。涙なしでは読めない一冊。



03 なれのはて
加藤シゲアキ / 著 講談社

1枚の絵から始まるミステリー

祖母から譲り受けた謎の絵。作者の手掛かりは絵の裏に遺された署名のみ。作者の正体をさぐるうちに、戦争が引き起こした家族の亀裂に辿り着く。長編ながら読み進めずにはいられない、下準備にかなりの時間を要したと思われる重厚な作品。アイドルと作家、両方を極めている著者に敬意を贈りたい。豊中市出身。

